

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 氏名 飯塚 浩史	社会医療総合医学教育研究分野
指導教授氏名	中路 重之	
論文審査担当者	主 査 小林 恒 副 査 石橋 恭之 副 査 大門 眞	
<p>(論文題目) 高齢者における残存歯数の経時的変化と骨密度の関係</p> <p>Relationship between the number of remaining teeth and bone density in elderly</p>		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>高齢化社会では、骨粗鬆症は QOL の重大な阻害要因である。骨粗鬆症のリスクは多様であるが、その中の 1 つに口腔環境の悪化も挙げられている。最近では歯数と骨密度の関係性は高齢者の健康を語る上で重要であると考えられるが、これを縦断的に調査した研究はほとんどみられない。本研究では、一般高齢住民を対象として歯数と骨密度の関係を 9 年間の縦断研究により調査、検討した。</p> <p>対象は 2005 年及び 2014 年の岩木健康増進プロジェクト・プロジェクト健診の両方を受診した 60 歳以上の一般高齢住民の男女である。このうち、悪性腫瘍、脳卒中、心疾患及び骨粗鬆症治療薬、ステロイド服用者、無歯顎者、欠損値のある者を除外した 62 名（男性 32 名、女性 30 名）を対象とした。</p> <p>測定項目は、骨密度、残存歯数と義歯使用の有無、病歴・服薬状況、喫煙習慣、飲酒習慣、運動回数、BMI であった。喪失歯数と骨密度の変化（量）の関係を評価する目的で 2005 年から 2014 年の 9 年の縦断研究をおこなった。解析は、男女別に 2005 年時の残存歯数により 1-19 本群と 20 本以上群に分けて、各群において実施した。</p> <p>その結果、男女ともに調査期間中の歯の喪失数と音響的骨評価値 (OSI) の変化量に有意な相関関係がみられた。しかし、この関係はベースライン時の残存歯数の本数が 20 本以上においてのみにみられ、20 本未満においてはみられなかった。歯数と骨粗鬆症の関連メカニズムとしては、①歯周病を介する経路、②咀嚼力低下を介する経路、③骨粗鬆症による歯の喪失の 3 つが考えられるが、この結果からは、骨密度の低下は歯の喪失による栄養障害や骨粗鬆症による歯の喪失ではなく、①の歯周病との関連性が窺われた。また交絡因子を調整することで男性においては運動習慣が骨密度に影響を与えていることがわかった。骨粗鬆症の予防対策として運動習慣、飲酒習慣および禁煙に加えて口腔ケアが重要であり、特に口腔ケアは早期の骨密度低下対策として有効である可能性が示唆された。</p> <p>本研究は残存歯数と骨密度の関係を縦断研究において検討した研究であり、口腔ケアにより骨密度の維持の可能性を示唆し、疫学研究としての意義があり、学位授与に値する。</p>		
公表雑誌等名	体力・栄養・免疫学雑誌(平成 29 年 1 月受理)	